

令和2年1月29日

ぼうさい国大シンポジウム(令和元年10月20日)の概要について(報告)

- 1 名称:ぼうさい国大公開シンポジウム「災害を科学と語り継ぎ未来を生きる～伊勢湾台風の記憶をよみがえらせ、南海トラフ地震津波に備える」
- 2 日本学術会議の主催者:科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会、土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会
- 3 その他の主催団体等:全体のイベントは内閣府などで構成する「防災推進国民大会2019 実行委員会」
- 4 開催日時:令和元年10月20日(日)10時00分～11時30分
- 5 開催場所:名古屋コンベンションホール 302 会議室
- 6 開催趣旨:

将来の災害への備えには、過去の災害を科学的に検証しつつ、その記憶を語り継ぐ必要があります。伊勢湾台風や昭和東南海地震などの過去の災害の記録の科学的な検証を、来るべき南海トラフ地震津波やスーパー伊勢湾台風への対策にいかにかかすか、企業・行政・マスコミ・学術の第一線で活躍する方々が、参加者の皆様と熱く語ります。
- 7 参加人数:

講演者等:10名
その他の参加者:72名
- 8 特記事項:

ぼうさい国大については、<http://bosai-kokutai.jp/>にて全国的に広報がなされたことから、会場への来場者が多く、用意した会議室はほぼ満席となり、会議参加者との質疑応答も活発に行われ、大変有意義な公開シンポジウムとなった。

これまで、科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会で議論してきた「多様な人々が防災の当事者となり、科学の成果が『腑に落ちる』形で伝わるための工夫と、その媒介役のファシリテーターが必要」という趣旨が参加者によく伝わったものと思料。



R1.10.20.(日)
10:00~11:30

名古屋コンベンションホール302会議室 **入場無料**

将来の災害への備えには、過去の災害を科学的に検証しつつ、その記憶を語り継ぐ必要があります。

伊勢湾台風や昭和東南海地震などの過去の災害の記録の科学的な検証を、来るべき南海トラフ地震津波やスーパー伊勢湾台風への対策にいかにかかすか、企業・行政・マスコミ・学術の第一線で活躍する方々が、参加者の皆様と熱く語ります。

開会挨拶

小池俊雄

国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)センター長、
東京大学名誉教授

講演

「科学と制度との狭間で考える、災害軽減に活かす科学」

山岡耕春

名古屋大学大学院環境学研究科教授、
日本地震学会会長

講演

「過去の災害を踏まえた防災技術の進歩」

井上信

東邦ガス供給本部供給防災部長

講演

「過去の災害から学ぶ最も危険な天気図とは」

寺尾直樹

NHK名古屋放送局気象キャスター

講演

「昭和南海地震の教訓と大規模広域災害対策」

阪本真由美

兵庫県立大学准教授

講演

「防災・減災に向けた名古屋市の取り組み」

酒井康宏

名古屋市防災危機管理局長

パネルディスカッション

西川智 (司会)

名古屋大学減災連携研究センター教授

閉会挨拶

寶馨

京都大学大学院総合生存学館(思修館)学館長・教授

共催: 日本学術会議科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会
日本学術会議土木工学・建築学委員会IRDR分科会

災害を科学と語り継ぎ未来を生きる
伊勢湾台風の記憶をよみがえらせ、
南海トラフ地震津波に備える

